

「人の数だけ生き方がある」

～お互いを尊重し認め合える豊かさを求めて～

日時

10月21日(土) 14:00～16:00
(開場13:30)

入場無料

場所

県民文化センターふくやま
(福山市東桜町1-21 福山市役所北側)

講師

よしなが
吉永 みち子さん
(ノンフィクション作家)



参加申込方法

次のQRコードから申込フォームをご利用の上、お申込みください。(9月1日受付開始 ※先着)
※QRコードからの申込みが難しい場合は、ご相談ください。
※申込みいただいた個人情報は、今回の講演会以外に使用することはありません。



申込フォーム



講演会についてはこちら

- 定員500人
- 託児有：対象 0歳～未就学児まで
(10月11日(水)までに要予約)
※親子で聴講できる「親子ルーム」もあります。
- 手話通訳・要約筆記あり
- 駐車場は準備しておりませんので、公共交通機関をご利用ください。

主 催 福山市
企画・運営 福山市男女共同参画フォーラム実行委員会
問い合わせ先 福山市市民局まちづくり推進部多様性社会推進課
TEL 084-928-1235

講演内容

— これまでの社会は“自分らしく”の前にまず、“男らしさ” “女らしさ”があった。特に女性はこれまで“〇〇さんの奥さん、おかあさん、おばあちゃん”と、自分の名前とさえ無縁で生きてきた —

男女共同参画社会というものができる前は、男らしく・女らしく生きる社会では自分らしく生きる事は尊重されませんでした。

男社会の中に入り名刺を作ってもらってもずっと「姉ちゃん」と呼ばれて、女性が固有名詞で呼ばれることが難しいと感じました。男性も仕事や肩書が無くなると、「粗大ゴミ」「ぬれ落ち葉」などと呼ばれ、ようやく「自分らしく生きて来なかった」と気付く点では同じでした。

男だから女だからという性別に拘わらず「自分らしさ」が問われる時代へと変化している今こそ、自分は何をしたいのかをしっかりとわかっていることが必要です。でもまだ、世間の壁が立ちほだけ、自分らしく生きにくい社会であることも事実です。

人の数だけ生き方があります。お互いの色を尊重し、認め合える社会の実現に向け、これまでの人生を振り返りながら、お話しいたします。

講師プロフィール

よしなが
吉永 ^こみち子 さん (ノンフィクション作家)

1950年埼玉生まれ。東京外国語大学インドネシア科卒業。

日本初の女性競馬新聞記者で、その後、「日刊ゲンダイ」の記者として活躍。

(株)日刊現代を退社後、約5年間の専業主婦を経てノンフィクション作家として復帰。

1985年『気がつけば騎手の女房』で第16回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。

現在は、テレビのコメンテーターとしても活躍中。



<著書>

「怖いもの知らずの女たち」(山と溪谷社)

「40代。自分が変わる生き方」(海竜社)

「どこゆく? 団塊男 どうする! 団塊女」(日本経済新聞社)